

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400146		
法人名	株式会社さくら		
事業所名	グループホーム稗原 (さくらユニット)		
所在地	島根県出雲市稗原町1724		
自己評価作成日	平成29年5月23日	評価結果市町村受理日	平成29年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成29年6月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の家族や知り合いが来所しやすい雰囲気作りを大事にしている。
 地域の方からたくさんのお野菜を頂いており旬の食材を食事やおやつ作りに利用している。食事は全て手作りし、昔ながらの慣れ親しんだ料理が利用者が利用者へ喜ばれている。
 医療の面は地元の医師と連携して早急な対応をしている。
 地域とのつながりが深く、地域の敬老会や小学校の行事などに参加させていただいている。
 また、地区の幼稚園児や小学生の訪問が度々あり、交流を深めている。
 同地区に畑を所有し、収穫の喜びを感じていただいている。
 施設内で犬を飼っており、利用者の癒しとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、開設から10年を経て、地元住民の福祉の拠点ともなっている。自宅で介護が困難になってきたので、ホームへの入居をするが、毎日のように家族が会いに来ることも少なくない。地元のかかりつけ医の見守る中で、看取りも定着してきた。食べる事を大切にしている事は本年度も利用者、家族に高い評価を受けている。食事の形態がかわっても工夫し、四季折々の食材を利用するが、近隣からの野菜や果物、また、地元のいのしし肉などのさし入れも、日常的である。衛生管理のもと生野菜、刺身等も調理され、すべてが手作りである。外出、行事活動も積極的に行っており、地域との交流もさらに深くなっている。このたび、居室のフロアを畳敷きに改修し、居心地の良い和室空間になっている。畳の間で落ち着くだけでなく、転倒の際の衝撃緩和にもなるという。運営推進会議では、地域の参加者も多く、意見や提案が活発で、ホームの活動に取り入れられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に意識できるよう玄関に理念を掲示している。	利用者が主人公であり「共に喜び、共に悲しみ、共に生きる」の理念が実践されている。日中は、二つのユニットが互いに交流しており、会話やふれあいなど孤独にならないにぎやかな暮らしとなっている。室内犬もすっかり馴染んで、利用者の一員となって和んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園生や小学生の訪問が度々ある。地域の行事にも誘っていただき参加している。	幼稚園、小学校との定期交流や、ボランティア(ハーモニカ、オペラ等)訪問、定例となったホーム祭りの際は演歌歌手も呼び、地元の人達とのつながりも深くなっている。ホームページをみて、グループホームをさらに知る事で、地元のスタッフも増えてきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を借りて認知症の人の理解や支援の方法について研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表者、利用者家族、第三者委員、行政職員などの方々と、定期的開催しており、地域の方からの意見を取り入れ実践できるように努めている。	毎回の会議を貴重な場所として認識されている。地域住民からは、ホームの職員体制や行事へのアイデア、さらには、災害時の対応などにも活発な意見が出されており、協力的である。ホームは、意見を取り入れ実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難なケースや対処の仕方などについてはその都度市の担当者に相談しながら対応している。	事業所内で起こった諸問題は都度、市や地域包括支援センターなどに、必要な相談を行っており、利用者が安全に生活できるように支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の事例に関して事業所内で検討を行い、身体拘束をしないケアを目指している。	一人一人を大切にする個別ケアが行われ、個別の行動パターンを把握して安全の確保をはかっている。予測されるリスクに関しては、その都度家族に報告相談を行い、抑圧感のない自由な暮らしを支援できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外にて研修で学ぶ機会を持ち、状況に応じて適した制度利用ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、改定時には説明の機会を設けている。退所時にも疑問に対しきちんと答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人や家族から意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。意見の内容によっては会議を行って改善に努めている。	利用者からの要望にも真摯に受け止め、対応されている。家族の意見にも適切に対応している。家族の面会は多く、外に開かれたホームである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や職員会議などで意見や提案が出しやすい雰囲気作りに努めている。	「気づきノート」が活用され、職員会議や毎日の話し合いの中でも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって働けるような職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修、各種訓練、地域の健康セミナーなど学ぶ機会を多く持つよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協会に参加する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人の希望を具体的に聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の前、入所時に家族の話を傾聴するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本院や家族からの話、情報提供書を活用し、ケースに合った支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事も職員が行なうのではなく、日常生活の各場面で利用者と共に行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて家族と連絡を取り合い、受診の付き添いや買い物など協力しながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の方が来やすいような雰囲気作りに努めている。	これまで大切にしてきた地元の知人が訪問したり、行きつけの美容室に通ったり、墓参りや自分の家の花を見に行ったり、利用者の希望に沿った支援がなされている。ほとんどの家族が頻繁にホームを訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係を把握し、各時間の席の配置に気を配ったり、必要に応じて職員が間にり、より良い関係性が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も人に応じて施設の行事に声を掛け、参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で思いや希望を聞き職員間で情報共有している。また、ご家族からの意見を聞き、希望や意向を把握するよう努めている。	日常生活の会話の中で利用者の希望を聞いたり、家族からの情報や意見の中から希望や意向を把握するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供やご家族からのお話を参考にしている。本人との会話の中からこれまでの生活歴を聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の時間の使い方、できることできないこと、気づいたことを職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時間のミーティング、定期不定期に行うカンファレンスで意見を出し合っている。	1日に1回は引き継ぎ時に、意見をだして、話し合う場を設けている。スタッフ全体で話し合い、本人の意向にあった介護計画書をつくり、日々の様子を記録した上で毎月モニタリングを行っている。現状に即した介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った個別記録を全員で行い、特に知ってほしいことは送りノートにも記入し、毎日チェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	髪を染めたいと言われれば美容院にお連れしたり、お墓参りに付き添ったり、病院への通院などできることは希望にそえるようにしている。、遠方のご家族が面会に来られた際は、駅からの送迎や、昼食を一緒に食べていただけるようお声掛けもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のミニデイサービスに参加したり、地域の方のご好意に甘え栗拾いに行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と密に連絡をとりあい良い関係性を築くようにしている。本人や家族の希望がある場合は、以前からの馴染みの医療機関への受診を続けている。	入居の高齢者の置かれている状況は、ひとりひとり違って、複雑でもある。ホームと家族との人間関係もさまざまであり、信頼関係を築くことは重要であるが容易ではない。利用者や家族が望む医療機関を受診できるよう状況に応じて支援し、信頼関係を築いてこられた。調査当日も、一人の入居者が職員に連れられて、病院へ出かけるところであった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から情報や気づきを看護師に報告・相談している。協力医療機関の看護師にもよく相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、病院関係者からの情報を得ている。退院前には必要に応じて病院側のカンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた指針を使って説明、対応している。	本人や家族の意志を尊重して、医師、職員の連携のもと、安心して最期を迎えられるように終末期ケアも行われている。職員の貴重な経験は、更に一人一人を大切にする向上の機会にもなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルをいつでも見れるところに置いている。地域が行う応急手当の研修に毎回参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。地元の消防団や地域の方にも時々参加していただいている。	定期的訓練を行い、手順の徹底的な確認を行っている。非難を想定して、再度建物内の危険な物の見直しもしている。災害時の地域住民との協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ、対応する姿勢など意識して対応している。マナーについても施設内研修で学んでいる。	職員同士で普段から言葉かけについての話し合いは行われており、配慮のある対応はできている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言いやすいような関係性を築くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの内容、入浴の頻度、時間の使い方など利用者の意見を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方は衣類を選んでいただいている。理美容に関して本人の希望があればそのお店に行ったり美容師を呼んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かし、野菜の皮むきなど下ごしらえを手伝っていただいている。スイカが食べたい、おはぎが食べないなどの希望があれば、次の日に提供するなど、食事が利用者さまの楽しみになるようにメニューも柔軟に対応している。	食事づくりは、畑で収穫したものや地域住民からの旬の食材の差し入れなど、食べることにまつわり、ホーム内だけでなく、地域を巻き込んだ協力体制が築かれている。調査当日の昼食は、旬の野菜といかの掻き揚げ、いのしし肉の素麺すまし汁、さばの散らし寿司、スイカと大変美味しいものでした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の量は毎日チェック、記録し情報を共有している。その人に合った食事量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助を行っている。自分でされる方、全介助がいる方、それぞれに合ったケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人でトイレに行けない方、尿意の訴えがない方でも定期的にトイレ誘導をし、できるだけトイレに行く習慣を失わないよう支援している。	トイレでの排泄を心がけており、それぞれの利用者さんの排泄パターンにあわせた誘導がおこなわれている。トイレは、掃除や消毒が行き届いており、常に清潔に保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から野菜の多い食事を提供している。人によっては牛乳や乳酸菌飲料、ヨーグルトなどを摂ってもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日の表は作っているが、本人の希望によっては変更している。	入浴時間は出来るだけゆっくりを大切にしている。2日に1回入浴をされるが、希望があればいつでも入浴できる体制である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早く休みたい方、しばらくテレビを観てから休みたい方などその方に合わせて就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば必ず送りノートに記入し情報を共有している。薬による本人の変化にも職員同志声を掛け合い注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物を干したり、仕分けたり、畳んだり、能力に適した仕事をなるべく行っていただいている。またその方が習慣的に食べている食べ物など希望があれば購入してしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を作り気分転換をしてもらうよう努めている。また、寝たきりに近い方でも家族と外出できるようお手伝いしている。	ホームは自然豊かな山間の川沿いに在り、四季折々の風景も楽しめる。利用者は職員に付き添われて、散歩や畑での収穫、地域の行事への参加や山での栗拾いなど、日常的に出かけている。時に県外へも遠出ドライブも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状況を把握し、それに見合った使い方を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など希望される方にはハガキを準備し、記入のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じて昼間でも廊下や玄関に灯りをつけたりしている。季節の花や行事の飾り物をし、季節感を感じていただくようにしている。	利用者さんはソファやこたつ、椅子など、自分の気に入った居場所に落ち着いて他の利用者との会話やふれあいを楽しんで過ごすことが出来る。ホームで育った室内犬がアニマルセラピーとして、癒しや愛着の感情を豊かにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなど場面転換ができるスペースを設けている。また、話の合う方が集まれるよう席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ち込んでもらったり、家族との写真や昔作られたものなどを飾ったりし、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	居室は、畳敷きに改装されており、座位のたたずまいも落ち着けるようになっている。転倒による衝撃も和らげる効果もあるという。利用者さんは、ゆっくりと休める個室になっている。家族の面会時などにも、ゆっくりと談話できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室、浴室の表示をわかりやすくしている。居室が覚えられない方には名前以外にも目印をつけたりしている。		